

みなとの風

〒231-8682 横浜市中区新山下3-12-1 / TEL 045-628-6100(代)

<http://www.yokohama.jrc.or.jp/>

●発行: 2012年1月 医療連携センター

Contents

- 新年のごあいさつ 1
- 消化器内科のご紹介 2
- 皮膚科のご紹介 3

- 医療連携センターのご紹介 4
- 4区医師会・合同研究会開催 4
- 新任医師のご紹介 4

新年のごあいさつ(2012)



横浜市立みなと赤十字病院
院長 四宮謙一

新年あけましておめでとうございます。皆様にとって2012年が素晴らしい年であることを心より願っています。

さて、2012年には各種病院機能の大幅改善が計画されていますので、ご報告いたします。まずアレルギーセンターは昨年に改修が終わり、病院全体での集学的医療がますます発展すると考えています。ICUも病棟の改修が終わり、横浜一の救命救急センターに対応できるようなスタッフ数に近づき、臨床教育を含めて充実してきました。また、4月にはがんセンターが本格的に発足し、同時に肝胆膵外科が新たに加わります。外来化学療法室も5階に3倍の規模で新設され、PET/CTもがんセンター発足にあまり遅れることのないよう設置する計画を立てました。現在では申請済のがん診療連携拠点病院の承認を待っています。周産期医療に関しては、昨年強化された小児科に加えて4月からは産婦人科が大幅に強化され、横浜の拠点になると想っています。それに合わせて外来、分娩室の大幅改修が行われます。癌、脳疾患、心臓疾患の3大死因、周産期医療に加えて、精神科医療も政策的に注目されており、当院精神科の多彩な人材を生かして精神科拠点病院としての機能を確固たるものにしたいと考えています。さらにはコメディカルスタッフも大幅に増員され



るので、土曜日のリハビリ施行や画像診断装置稼働の可能性を検索しています。

昨年4月から臨床教育研修センターが発足して活動していますが、その一番の目的は優秀な臨床研修医を採用し、後期研修医、そして各診療領域の専門医へと育てることです。この4月から勤務する臨床研修医に関しては特に彼らの目的意識を重視して採用しましたが、昨年度採用の臨床研修医もカリキュラムに乗り順調に成長しています。彼らを数年後に本院の中心的な戦力に育て上げることが大きな使命と考えています。臨床教育研修センターでは看護部門も徐々にその一翼を担ってもらいたいと考えています。

最後に、急性期病院である横浜市立みなと赤十字病院にとって、地域の病院・診療所との密接な医療連携は、病院機能発展のために最も重要なことだと考えています。そのために地域医療連携室の体制を一新して「医療連携センター」と改称しました。持松泰彦部長をセンター長専従として組織の充実をはかり、地域全体での医療の質の向上と効率化をより一層進めていくように計画しています。

以上は現在進行している病院改善に向けた取り組みのご報告です。医師、看護職員、コメディカルスタッフ、事務職など、全ての職員が持つべき共通意識、「質の高い地域医療の実現」に向かってまい進していきたいと考えています。本年もご指導ご鞭撻の程どうかよろしくお願ひいたします。

当院における肝胆膵IVR治療

光学診断治療部長 先田信哉

当科では消化管疾患と肝胆膵疾患ほぼすべてを扱っております。

本年8月より肝胆膵IVR外来を開始いたしました。今回はその内容についてご紹介させて頂きます。IVRとはinterventional radiologyの略で放射線画像を使用した侵襲的治療のことで、血管造影による治療と内視鏡併用治療とに分けられます。

まず血管造影のほうですが、こちらは動脈を主に攻略する手法と、門脈関係を主に攻略する手法とに細分化されます。前者は、通常の肝細胞癌への化学塞栓療法を基本として様々な応用が効きます。癌への動注リザーバー留置や、腸管膜動脈血栓症への血栓溶解術や除去術、重症脾炎への動注術、内視鏡止血不能時や実質臓器出血の動脈塞栓術などです。

今回は後者についてPSE (Partial Splenic arterial Embolization部分的脾動脈塞栓術)、BRTO(Ballon occluded ReTrograde Oblitartionバルーンによる逆行性門脈大循環シャント塞栓術)、PVS(Peritoneo-Venous Shunt腹腔静脈シャント造設術)をご紹介させていただきます。

PSEは脾動脈を部分的に塞栓する手技で、主に肝硬変などに伴う脾機能亢進症対策として行います。図1は術後CTで造影されない領域が梗塞域です。血球系減少、特に血小板を増加させたいとき

に行います。またインターフェロンを予定しているのに血小板が低くてこれがネックとなるようなケースにも良い適応があります。さらに門脈圧低減効果も知られており、治療抵抗性の難治性静脈瘤やPHGと呼ばれる門脈圧亢進性胃症などの改善効果も知られています。図2は静脈瘤への効果を示したもので、PSE前に比較しPSE後では静脈瘤が目立たなくなっています。

BRTOは、孤発性胃静脈瘤や、肝性脳症の一部への治療です。孤発性胃静脈瘤は門脈と大循環系への短絡路を有しています。ここをカテーテルを通して静脈瘤まで到達させ、硬化剤を注入するもので、しばらくするときれいに消失します。肝性脳症も一部は同様の短絡路を有することがあり、高アンモニア血症となります。そのため短絡路塞栓により劇的に血液中のアンモニアは低下します。

図3は腎静脈系短絡路と横隔膜から心膜静脈を経て左鎖骨下静脈に抜ける短絡路の二つがあったため、両者をダブルバルーンでせき止めて治療した胃静脈瘤です。

図4は破裂した胃静脈瘤に対するBRTO前後の内視鏡です。

PVSは、難治性腹水に対する治療で肝硬変のみならず癌性腹膜炎なども適応に入ります。

腹腔と鎖骨下静脈を連絡することで腹水中のalbなど有用な物質を捨てることなく血管内に戻



図1



図2

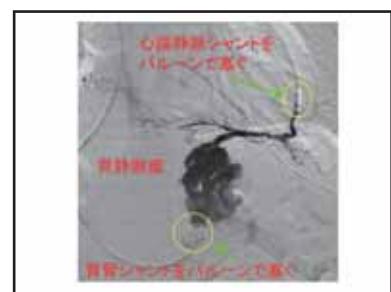


図3

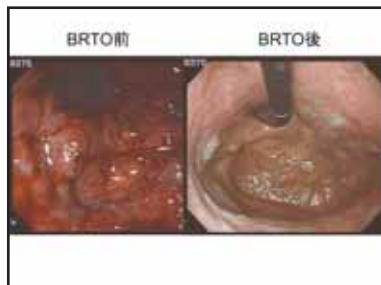


図4

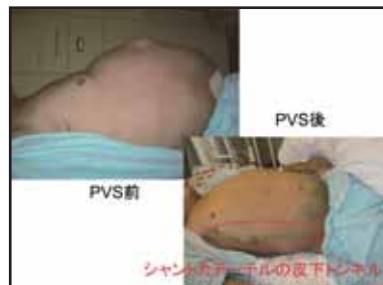


図5

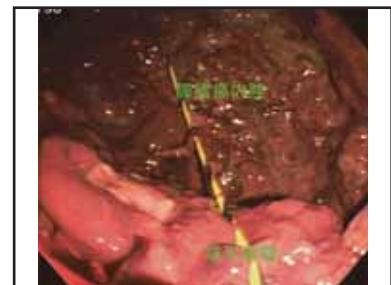


図6

すものです。図5は術前、術後の写真です。

以上、血管造影を述べてまいりましたが、次に内視鏡併用治療について述べさせていただきます。こちらは胆膵領域が中心となります。通常のERCPによる胆道系膵臓系へのIVRはもちろんですが、近年はinterventional EUSという、超音波内視鏡を応用した治療も導入しました。図6は膵膿瘍に対してnecrosectomyという手技を施行しているところです。胃の裏側にある膵膿瘍に、超音波内視鏡による誘導で胃から膿瘍内へ穿刺してアク

セルルートを作成し、さらにその針穴を風船で拡張したうえで内視鏡をそのまま胃から膿瘍内へ侵入させ、直接掃除しているところです。体腔内から外へdeviceを出すものでNOTES (Natural Orifice TransEndoscopic Surgery) の一種ともいえます。

当科では肝胆膵IVR外来を月曜日午後にあけておりますので患者さまがいらっしゃましたらご紹介のほど宜しくお願ひ申し上げます。

Topics 皮膚科のご紹介

皮膚科部長 並木 剛



昨年9月に東京医科歯科大学より赴任し、宮崎前部長のあとを引き継ぎ、診療業務に携わって参りました。現在、当科には写真の3名で診療に当たっており、皮膚科専門医1名および後期研修医1名を含めた3人体制にて診療を行っております。

当院は救命救急センターおよびアレルギーセンターを有し、横浜市の救急医療およびアレルギー医療の中心的な役割を担う立場にあります。皮膚科においてもこれらの役割を担うべく重症型薬疹・重症皮膚感染症などに対して迅速な対応を行い、またアレルギーセンター皮膚科としてアレルギー医療にも力を入れております。また今後は当院にてがんセンターが立ち上がることなどから皮膚悪性腫瘍へも重点を置き、埼玉県立がんセンター・東京医科歯科大学・アメリカ国立癌研究所などでがん医療に携わった経験を生かしセンチネルリンパ節生検を含めた皮膚悪性腫瘍の先端医療

を展開していきたいと考えおります。幸い当科は多岐にわたる皮膚科の分野のなかでも、皮膚外科を得意とする医師を配置しており、近隣の開業医の先生方または他病院皮膚科にては対応に難しい外科的治療を必要とする皮膚疾患に対してもより良く対応できる体制を整えております。緊急に外科的処置が必要な患者さまに対しても迅速に対応するように心がけておりますので、ぜひとも紹介頂けると幸いと思います。密接な連携を取りながら地域の先生方と皮膚科医療を展開できればと考えております。

今後も地域の拠点病院の皮膚科として、横浜市の皮膚科医療に貢献できればと考えております。適切な診断と治療法の選択に基づき、患者さま方に信頼され安心される医療を提供できるように努力していきたいと思います。どうぞ今後ともよろしくお願ひ致します。

10月から、[医療連携センター/療養・福祉相談室]になりました



10月付で病院長より、地域医療連携室のセンター化に伴う専任センター長に指名されました。名称も出来るだけシンプルに変更しました。

横浜市中心部は後方病床・療養施設数や在宅介護力の低さなど、全国的に見ても最低レベルの厳しい環境にあります。皆様のご協力で開院7年目の地域連携の実績は地域・他施設からも評価されるレベルまで引き上げられてきていますが、より一層の地域医療・介護療養資源との連携を進めていかねば、当院の代名詞ともなっている「断わらない救急」の継続が難しくなってしまいます。名称変更に見合った質の向上と量の充実に向けて、責任者としてマンパワーの充実はもちろんのこと、院内での風通しの良い協力体制の構築を目指します。

医療連携センター長 持松泰彦

医療連携センター化を機に、総合相談室を「療養・福祉相談室」と改称しました。がん相談支援センター機能も、こちらで担当します。地域医療連携課は実務担当者を充実し、紹介予約の電話をお待たせることないように増員中です。

今後の課題として、かかりつけ医相談窓口の方向性と、提供する情報の収集・精度向上があります。通院中の患者さんの中には、在宅医へ繋ぐ方が適切な病状の方も少なからず見られます。外来担当医と患者家族、双方の負担軽減にもなることから、この目的での窓口利用を検討中です。

尚、私は大学分院時代より20年間続けてきた脳神経外科部長の方が兼任扱いとなり、第一と第二の交代で施設責任者は高木先生となります。こちらも宜しくお願いします。

第16回 4区医師会・みなと赤十字病院合同研究会開催

医局学術（膠原病リウマチ内科）萩山裕之

去る11月16日、第16回4区医師会・みなと赤十字病院合同研究会を開催しました。今年は西区医師会の先生方のご支援のもと準備を進め、初の試みとして、医師会の先生方のご要望で一部の演題を決め、医師会長の進藤先生にもご発表頂きました。進藤先生は3D-CTによる大腸立体画像の内視鏡挿入不能例への応用につきご発表されましたが、まだ実施している施設が少ない検査法であり、大変興味深く拝聴させて頂

きました。また、学術担当の秋月先生には多大なるご助言を頂き、副会長の横打先生には快く座長の労をとって頂きました。重ねてお礼申し上げます。

今年は、日取りの決定が遅れてしまい、参加することができなかつた先生方多かったですと聞きます。来年度からは医療連携センターを担当として半年ほど前には日程を決定したいと考えておりますので、是非ご協力のほどお願い致します。



西区進藤会長の発表



座長 西区 横打副会長 先田部長



会場 風景

新任医師のご紹介

新しく就任した医師をご紹介させていただきます。今後地域の先生方と地域医療の連携を推進していきたいと存じますのでどうぞよろしくお願ひいたします。

＊＊＊ 質問項目 ＊＊＊

①診療科(専門領域) ②取得認定医 ③卒業大学 ④卒業年度 ⑤趣味 ⑥地域の先生方へ一言！

タカミ マイコ
高見麻衣子



- ①形成外科(形成外科一般)
- ③旭川医科大学
- ④平成17年
- ⑤ドライブ・ピアノ
- ⑥「微力ながらも横浜の地域医療に貢献できたら、と思っております。今後ともよろしくお願ひします。」

タナカケンザブロウ
田中健三郎



- ①精神科(精神医学一般)
- ③東京医科歯科大学
- ④平成18年
- ⑤ボルダリング
- ⑥「ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。」

オカジマ マリ
岡島 真里



- ①救急科
- ③鳥取大学
- ④平成21年
- ⑤スポーツ
- ⑥「どうぞよろしくお願ひ致します。」

紹介患者さんのお問い合わせご予約は地域医療連携課

電話 045-628-6365 (直通) / FAX 045-628-6367 (直通FAX)
E-mail : minato-renkei@yokohama.jrc.or.jp